

2012JR春闘を統一要求・統一闘争で闘おう！

2012年賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求に関する第3回団体交渉開催！

**震災を乗り越えた社員の労苦に
会社は実をもって応えよ！**

**65歳定年制を実施せよ！54歳以降の原則出向は廃止せよ！
恣意的な添乗・指摘をやめ、成績率の運用は公正・公平に行え！**

2月29日、2012年度賃金引き上げなどの第3回団体交渉を開催し、組合が要求した事項（申第24号）の一部について議論を行いました。

会社は第1回目の団交で、諸状況についてとにかく悪いところだけを強調し、ベースアップを含む定期昇給や夏季手当、その他の諸要求の改善について極めて難色を示していました。組合は、経済動向の回復の兆しや業績の上方修正、役員 of 異常な高額報酬、リニアへの投資、社員の我慢によって蓄積された内部留保金など、会社には余裕があり、そして何よりも大震災を乗り越えた社員の苦労に実をもって応えるために、ベースアップ3700円、減額なしの定期昇給「標準乗数4」の実施、夏季手当3.2ヶ月を回答するよう、社員の切実な気持ちを代表して会社にぶつけてきました。

しかし会社は、切実な社員の気持ちに應えるどころか、人よりも他の所への投資が会社の未来のためという姿勢で、一貫して私たちの要求に難色を示しました。

会社は成績率の増減は公正公平に行っているとしています。しかし、大阪第二運輸所では19名の東海労組合員のうち7名が年末手当をカットされました。去年は20名中10名がカットされています。事故を起こすこともなく普通に乗務していて、他の乗務員と一体何が違うのでしょうか。カットが多いのは、あきらかに会社が東海労組合員を狙って添乗し、そして指摘を繰り返しているからです。これを恣意的ではないなどとよく言えるものです。愛知労働委員会で会社証人が東海鉄事の対象社員4,000名強の中でカットは約40名と証言していましたが、その約40名の内14名が東海労組合員です。団交でこの事実を突きつけましたが、会社は「労働委員会の話だ、その話はしない」と議論を避けるような態度でした。

報酬比例部分の年金支給が今後引き上げとなり、60歳以降の雇用について会社が責任を持つよう求められています。会社は検討している段階としつつも、定年の延長については今は考えていないとしました。これまで何人もの東海労組合員が再雇用の条件を悪用され専任社員として雇用されていません。組合は、このような行為を許さないためにも、段階的対応ではなく一気に定年を65歳とし、併せて54歳以降の原則出向の廃止について強く求めました。